

99 パリの街中で見つけた日本のオブジェ（2022年2月17日）

パリの街中を歩いていて、意外なところで日本に関する作品やオブジェを見かけることがあります。これまでに会った日本に関するものをいくつかご紹介します。

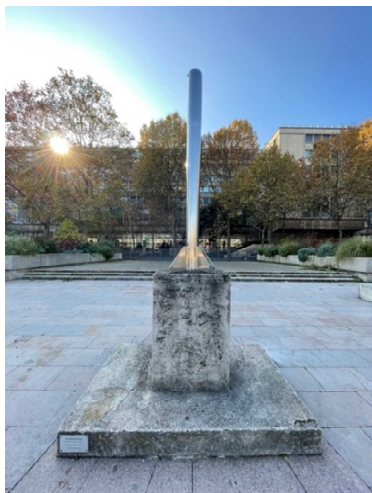


日本大使館の隣にあるモンソー公園には、石灯籠があります。これは、1982年に東京都とパリ市が姉妹都市提携を結んだ際に、東京都がパリ市に寄贈したものです。当時のパリ市長は、日本文化に精通したことで知られたジャック・シラク元大統領でした。この石灯籠は、18世紀に作られたものだと伝えられています。

また、パリ東部のヴァンセンヌの森の中にあるドメニル湖 (Lac Daumesnil) 近くには、「雲水群像」と名付けられた彫刻があります。これは、彫刻家・矢崎虎夫 (1904-1988) による作品で、1971年に完成しました。矢崎は、彫刻家で画家の



オシップ・ザッキン (1890-1967) に師事しました。雲水とは、禅宗の修行僧のことで、流れる雲や水のように一か所にとどまらずに修行する様子を表現した言葉です。「雲水群像」の文字は、矢崎の師であった平櫛田中によるものです。



セーヌ川にかかるオステルリッツ橋とサン＝ルイ島を通るシュリー橋の間の川岸で、現代芸術家・飯田善国 (1923-2006) の彫刻作品「Shining Wings」を見つけました。この川岸は、野外彫刻美術館と名付けられて、いくつもの彫刻作品が置かれており、散歩をしながらアートを鑑賞することができます。

## パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

最後に、パリの中心部のパレ・ロワイヤル近くにある黒田アキさん(1944-)の壁画をご紹介します。黒田さんは、長年パリで活躍されている画家です。壁にAki Kurodaと名前が入っています。これは、パリ市内の10以上の区にある建物の壁に有名な画家が絵を描くプロジェクトの一環で、2000年に作成されました。パリ1区に日本人が選ばれたことを誇りに思います。



美術館へ行かなくても、日本に関するこれだけの作品を目にすることができます。パリの街を歩いていても、さりげなく存在する作品を見過ごしてしまいがちですが、パリの街にはアート作品があふれていることを改めて実感しました。